

秋田県指定無形民俗文化財 松館天満宮三台山獅子大権現舞 まつだてでんまんぐうさんのだいさんし しだいごんげんまい

秋田県鹿角市八幡平字松館地区 平成二十九年四月二十五日現在

秋田県鹿角市八幡平字松館地区 松館天満宮舞楽保存会

### △神楽奉納

松館菅原神社 秋田県鹿角市八幡平字天神館三十三番地に鎮座  
春の例大祭 每年四月二十五日午前  
秋の例祭 每年十月一十五日午前（権現舞のみ）

### △構成 内容

山伏（修驗者）の修行の姿、即ち白装束を着用して、神前に奉納する舞で、祭場に薦を敷いて、次の舞を舞い納めます。

①舞処などを清淨にする「御幣舞（幣束舞）」、  
②地の神を鎮め奉る「地舞」、  
③神靈を仰ぐ「榊舞」、  
④お湯立ての火を燃え立たせる「青柳舞」、  
⑤火が盛んに燃えていることを祝う「扇舞」、  
⑥身を研ぎ清める「剣舞」を順次舞いなめます。

⑦「権現舞」は片手で獅子頭を高く挙げ、歯を打ち鳴らして舞い回す舞で、尾絡み役は、獅子頭の回転に連動して絡みを行い、学業成就、無病息災を祈願します。  
この権現舞には、「御神歌」が謡われます。

⑧次に大釜一杯に湯を沸き騰たせ、その湯を搔き回して稻の作占いと、  
⑨湯浴みを行う「お湯立て神事」を納めます。

⑩獅子頭で参拝中の幼稚園児や氏子などの頭部をかんで「獅子権現の靈力授与」を行います。  
なお、宮司宅（参集の場所）から菅原神社本殿への参進退下のときは、「渡御」の曲を奏できます。

### △由来・沿革

正安二年（一二三〇〇、また治安二年（一二〇二二）とも）、京都北野天満宮から「天満大自在綱乗天神宮（二祭神菅原道真公）」を勧請して崇め、村中が万歳樂を唱えて舞いなめたのが起源とされています。  
その後大正時代の前後、一時途絶えつつあつたが、昭和十二年（一九三七）に現在のような舞楽として再興しました。  
翌十三年には日本放送協会秋田放送局のラジオ番組に出演し、東北地方などに放送されました。  
平成五年、秋田県無形民俗文化財に指定されました。  
平成十一～十二年、秋田県指定無形民俗文化財「松館天満宮三台山獅子大権現舞」文化財収録作成調査  
成る（秋田県教育委員会報告書第三二五号）。

### △主な出演実績

一九九三 平成五年 秋田県無形民俗文化財大会に出演（於北秋田郡阿仁町）  
一九九七 平成九年 第一二回国民文化祭・アジア民俗芸能祭に出演（於香川県三木町）  
一九九八 平成十年 平成十年 第四八回秋田県公民館大会に出演（於鹿角市湯瀬温泉湯瀬ホテル）  
二〇〇〇 平成十二年 秋田県民芸術祭に出演（於秋田市秋田民会館）  
二〇〇二 平成十四年 第四四回北海道東北ブロック民俗芸能大会に出演（於岩手県花巻市文化会館）  
二〇〇三 平成十五年 第六回全国獅子舞フェスティバル（烏海）に出演（於由利郡烏海町）  
二〇〇七 平成十五年 十月二十五日秋季例祭にも権現舞が奉納される  
二〇〇八 平成十九年 十一月二十三日花輪まちづかいイベントに出演（於鹿角市花輪 旧関善酒店）  
二〇一〇 平成二十年 九月十三日第三十二回秋田県民俗芸能大会に出演（於能代市二ツ井公民館）  
二〇一二 平成二十四年 五月十三日秋田県神社庁新嘗祭獻穀田御田植祭に奉納（於松館センター）  
二〇一四 平成二十六年 十月十九日国民文化祭あきた2014に出演（於鹿角市記念スポーツセンター）